

自ら考え発信できる醍醐味



毎月第1土曜日に掲載

ベルグリーンワイズ
管理本部営業推進グループ
グループ長代理販促担当

長谷 恵美子さん

(はせ・えみこ)

青果物包装のプロとして青果物の鮮度保持、機能性包装資材の製造・販売を手掛けているベルグリーンワイズ(名古屋市中)。管理本部営業推進グループ販促担当の長谷恵美子さん(39歳)には子どもが3人いるが、同社は子育て支援の取り組みには法令以上に積極的で、とても働きやすい職場環境だという。

大学で少しデザインを学んだこともあり、パッケージを作る事業に興味を持って2006年4月、同社に入社。最初に配属された部署では、客先からの注文書処理する受注担当となっていた。その後、営業の各種サポートを行う担当を経て、製造製造に関わる工程管理業務を行った。



「考えるのが楽しい」と話す長谷さん

子育て支援制度整備にも力



販促の仕事では、お客様のメリットを創出しなければいけないという長谷さん(撮影のため、マスクを外しています)

理の両親の近くに引っ越した。また、当時、社内には産休、育休の利用者が少なく、会社は長谷さんと一緒に制度を整備していった。会社と家族のおかげで、家事と仕事の両立ができたという。

09年、同社の代表的な商品となる、オリジナル鮮度保持包装「オーラパック」が発売された。フィルムに独自の加工を施し、青果物内の水分子の循環を促すことで水分蒸散を抑え、しおれを抑制して鮮度を保持する包装材だ。この時、先輩から声を掛けられてそのロゴマークをデザインし、採用された。おかげで「オーラパック」は長谷さんにとっても忘れられない、愛着のある商品になった。

14年、販売促進の担当に異動。以前より販促広報の仕事に興味があり、関連する社内勉強会に参加したのがきっかけで自ら希望し「」を続けていく。

た。カタログやパンフレットの制作、情報誌の編集発行、ホームページの更新、メールマガジンの発行、SNS(会員制交流サイト)での情報発信などが仕事で、取材、原稿執筆、撮影、レイアウトなどを行うようになった。

「その商品にはどんな良いことがあるのかをしっかりと伝えたい」と力を込める。そのため、商品の良いところを深く考え、会社がその商品で何を実現したか、社内で取材しながら、さらに考える。そうして考えたことを発信できるのが仕事の醍醐味だという。

16年、育児など家庭の事情もあり、通勤が難しくなったが、野崎健社長から提案されて在宅勤務になった。この時、孤立感に陥らないよう、モニターで自宅と職場をつなぎ、気軽に職場の同僚に声を掛けられるようにした。

グループ長代理として後進を引っ張る立場にもなった長谷さんは「自分で考えることが大事だと教えている。どうしたら商品をお客さんが買いたいと思うようになるかを常に考えるように」と。

今後は、パッケージの良さを伝えるのはもちろん、そのパッケージが包む野菜の消費拡大にも貢献したいという。そのためにも、野菜の良さ、野菜がいかに健康に良いかをパッケージでちゃんと伝えられるよう、「しっかりと考えること」を続けていく。